

大分県福祉人材センターのご案内

福祉人材センターとは…

大分県福祉人材センターでは、職業安定法に基づき厚生労働大臣の許可を受け「無料職業紹介」を行っています。福祉の職場で働きたい方(求職者)と人材を求める方(求人者)との橋渡しをします。

福祉人材センターの仕組み



求人情報の提供・あっせん

求職登録者への求人票の閲覧及び情報誌の郵送、インターネットより求人情報を提供します。面接希望者には紹介状を発行し、面接を設定します。

就職面談・相談会の開催

定期的に就職フェアの開催と出張福祉のしごと相談会を実施しています。就職についてだけではなく、資格の取り方等についての相談も受け付けています。

福祉の人材発掘・福祉従事者への資質向上支援

福祉の分野での仕事に興味のある方に対して、入門セミナーや介護職員入門者研修を実施しています。また、社会福祉士の資格取得に向けた受験準備講習会も行っています。

求職登録～センター利用の流れ

福祉職場に就職を希望する方でしたらどなたでも登録できます。(最終年次の学生も登録可能です。)

1 求職登録 → 2 求人情報の提供 → 3 応募・紹介 → 4 選考 → 5 採否

求職登録を希望される方は、福祉人材センターにて所定の求職票にご記入ください。登録いただくと、求人情報をはじめ、さまざまな情報を提供します。インターネットからの登録もできます。

毎月、求人情報誌をお届けします。

応募先が決またら、福祉人材センターへご連絡のうえ、紹介状の発行を依頼してください。紹介状は福祉人材センターから応募先の事業所等へお送りします。なお、面接日の調整のほか、応募前の職場見学や体験の仲介もいたします。

求人事業所指定の採用選考(面接、筆記試験など)を受けます。

求人事業所から採否の連絡があります。

就職への支援制度のご案内

○介護職員初任者研修資格取得助成金
介護現場で働くとする皆様を支援するため「介護職員初任者研修課程」を修了し、新たに介護職員として就職した方、または既に介護職員として勤務している方へ、受講料(テキスト、実習費等を含む)の2分の1を支給します。

○離職介護人材再就職準備金貸付事業
介護職として一定の知識及び経験を有する離職中の方が、介護保険サービス事業所・施設で対象となる職種に再就職する際、必要となる経費の貸付けを行います。

※要件や申請方法等の詳細は大分県福祉人材センターのホームページよりご確認ください。

さまざまな介護福祉のしごとを無料で紹介しています。
まずはお気軽に問い合わせを!

大分県福祉人材センター

所在地 870-0161 大分県大分市明野東3丁目4-1
電話 097-552-7000
HP <https://oita-fjc.jp>



大分県の介護福祉の魅力を発信！

OPEN OITA PROJECT では
県内の介護に関する情報を随時アップしています。



特集_転職事例・多様な働き方の紹介

オオイタ 介護のシゴトガイド

発行／大分県福祉保健部高齢者福祉課





Profile

介護職員 夫:永松 弦紀さん(24歳) 2017年入職、介護福祉士
介護職員 妻:永松 楓さん(26歳) 2014年入職、介護福祉士
社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団
特別養護老人ホーム いづみの園

事業所内保育施設の前で、3歳の娘と一緒に。コロナ禍以前は保育施設の子どもたちが、夫婦が働く特養におさんぽで遊びに来ることもよくあり、仕事中でも娘の顔を見ることができたそうです。



「いづみの園」が取り組んでいるノーリフティングケア(抱え上げない介護)において、弦紀さんは介護課のリーダー的存在として他の職員に指導したり、相談に乗ったりしています。



介護プロフェッショナル

Voice

記事のフルバージョンは
←[OPEN OITA WEB]に掲載中!
合わせてチェックを!
<http://www.open-oita.jp>



40代で自営業から介護職へ転職
ゼロからのスタートを決意しました



子育てに理解ある職場

弦紀さん_私たち夫婦はふたりとも特別養護老人ホーム(以下、特養)「いづみの園」の介護職員ですが、私は従来型の棟で、妻はユニット型個室の棟で働いています。

楓さん_「いづみの園」には事業所内保育施設があるのですが、子どもが1歳になる時から預けて、育児休業から職場復帰しました。保育施設は特養から歩いて数十秒という近さ。毎日の送り迎えが便利ですし、何かあればすぐに駆けつけられるので安心できます。日ごろの様子もわかりやすくて、本当に助かっています。

弦紀さん_保育施設があることも大きいと思うのですが、職場全体が子育てに理解があり、とても協力的で大変ありがとうございます。職場の方々は私たちが夫婦だとわかつてくれていて、子どもの顔や名前も覚えてくれているので、子どもの体調が悪いと、「早く病院に連れて行ってあげて」と、私たちのどちらかが対応できるように調整をつけてくださいます。

楓さん_保育施設の子どもたちが特養まで、おさんぽに来たときに、私が担当している利用者様に娘をかわいがってもらったこともあります。

弦紀さん_そのように、職員のみなさんや利用者様と、家族ぐみでお付き合いさせていただけるのがうれしいですね。

楓さん_実は子育てをしながら仕事を続けることに不安を感じて、一度は仕事を辞めることを考えたこともあったのですが、施設長や職員の方々の励ましをいただき続けることにしたんです。今、職場の方々や保育施設のおかげで、子育てしやすい環境で働けているので、仕事を続けていて本当によかったと思っています。

お互いに支え合い、高め合う

弦紀さん_「いづみの園」には特養だけでなくさまざまな介護施設がありますし、保育施設や障がい者の施設もあるので、それらも含めて将来的に多方面で活躍できる人材になりたいと思っています。そのためにも資格を取ってキャリアアップしていきたいです。今年で入職して5年が経つので、目下の目標はケアマネジャーの受験にチャレンジすることです。

楓さん_私は利用者様の笑顔や喜ぶ姿を見るのが好きなので、誕生日会やお楽しみ会など、ユニット内で楽しめる色々な企画を考えていきたいです。そして、「永松さんがいたらうれしい!」と利用者様に思っていただけるような介護職員になっていけたらいいなと思っています。育児を続けながら、いつか私もケアマネジャーの資格にチャレンジしたいと思っています。

弦紀さん_これからも夫婦で協力しながら、お互いの目標に向かって頑張っていきたいですね。

楓さん_お互いに高め合える夫婦になっていけたらいいですね。

飲食店の廃業を乗り越えて

令和2年4月、コロナ禍の影響で、父親の代から30年近く続く飲食店の廃業を決断しました。その後、知り合いの飲食店で働き始めたのですが、その店も閉めることになったんです。コロナ禍で飲食店で働くのは厳しいことを痛感して、異業種に転職することにしました。私には今年小学校に入学する6歳の息子もいますし、将来的に安定した職に就きたいと考えていた矢先、こちらの「いづみの園」の求人募集を見つけました。

その時、青森県で介護施設に入っていた祖母のことを思い出しました。最期に会うことはできなかったのですが、何度か施設に面会に行いました。思えば、おばあちゃん子だった私は、小さいころから祖母以外の「おばあちゃん」にもかわいがられてきました。だから、介護施設で働くのもいいなと思ったんです。

介護はこれからますます人が必要になる業界ですから、仕事がなくなる心配がないこともひとつの動機です。経験や資格がなくても働けるということだったので面接をお願いして、面接から1週間もたたないうちに働きはじめることになりました。

未経験者でも働きやすい環境

現在、特養で利用者様の食事や排泄、入浴などをはじめ、生活全般を支援しています。入職したばかりの時は、仕事のことは全くわからない状態でしたが、介護職員初任者研修を受けて、スタッフのみなさんにやさしく指導してもらしながら少しずつ覚えていました。はじめは特に排泄介助に抵抗がありましたし、夜勤もあり、飲食業とは全く違う世界に戸惑うことが多かったのですが、だんだんと慣れて、今では全く抵抗はないですね。

異業種から転職してもうすぐ2年が経ちますが、今は介護の仕事にやりがいと誇りを感じています。利用者様からの「ありがとう」の一言が、何よりもうれしいですね。妻や親も応援してくれています。今後、ますます介護の仕事を極めたいと思っており、「介護福祉士」の資格を取得するのが目標です。

私のように異業種から介護職への転職を考えている方は不安や迷いも大きいですよね。まずは介護施設がどんなところか、どんな仕事をするのかを知るために、実際に施設を見学して、話を聞いてみることをおすすめします。その上でじっくり考えてみるとよいと思いますよ。

介護業界は今、介護者の身体的負担が軽減するノーリフティングケアという介護方法や、ICTの活用などが導入され、先進化が進んでいるので、今後、より働きやすい環境が整っていくことが期待できます。ですから、異業種からでもぜひチャレンジしてみてほしいです。一緒に介護の明るい未来を築いていきましょう。



飲食店時代にたくさんのお客様を接客してきた経験から、話しただけでは「この方はこんな人かな」「今、こう思っているのかな」と直感で分かることが、介護の仕事に生きているそうです。



介護施設での3年以上の実務経験と研修を終えれば「介護福祉士」の受験資格が得られるのではなく、とにかく3年間はしっかりと実務経験を積んでいきたいと、目標に向かって前向きに働く澤上さん。

